

科目「現代文A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代文A	単位数	3単位	学年・学科	3学年全学科
使用教科書	『新編現代文A』（第一学習社）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』（尚文出版）、総合文字力（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	① 近代以降の様々な文章、特に随筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てること、多様な文章や考えに触れることをねらいとする。 ③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。但し、日本漢字能力検定2級以上取得をした者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・随想「なぜ、“コロンブスの卵”を描くのか」（福田哲夫） ・小説「相棒」（内海隆一郎） ・評論「数え方で磨く日本語」（飯田朝子）	・随想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。 ・小説に描かれた世界に触れることで、豊かな情操を養う。 ・評論文を読み、筆者の考えを理解し、自身の生活について考える。	・一斉授業(座学) ・読書案内	中間考查 学期末考查 提出物
9 10 11 12	・評論「コミュニケーションの文化」（平田オリザ） ・随想「出島のチューリップ」（吉田直哉） ・小説「山月記」（中島敦）	・評論文の特徴を知る。本文やまわりの具体例を通してコミュニケーションの在り方について考える。 ・随想を読み、筆者の思いを理解し、自らの生活について考える。 ・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。	・一斉授業(座学) ・読書案内	中間考查 学期末考查 提出物
1 2 3	・小説「山月記」（川上弘美）		・一斉授業(座学) ・読書案内	学年末考查 提出物

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
・近代以降の様々な文章や文体に触れ、我が国の言語文化に対する理解を深め、読書に親しむ。 【定期考查・提出物・出席状況・授業態度】	筆者の考えに対する自分の思考を深め、授業での学習事項を基本として、自らの考えや意見を表現する創造的な能力を身に付けている。 【定期考查・感想文（初発の感想を含む）・授業態度】	基礎的・基本的な「文章を読むための要点」を身に付け、筆者の主張や文章の要旨を的確に読み取る。 【定期考查・授業態度】	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、国語学習の基本的知識を身に付けている。 【定期考查・提出物】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	25	10	15	20	70	学習到達度の確認
提出物等	5	5		10	20	予習・復習の確認
授業態度・発表	2		5		7	取り組む姿勢
出席状況	3				3	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「世界史A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	地理歴史（世界史A）	単位数	2単位	学年・学科	3学年 全学科
使用教科書	世界史A（東京書籍）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	現代世界の基本的な構造とその変動について歴史的観点から把握する。
学習の到達目標	歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら現代の諸課題を歴史的観点から考察する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	序章 古代文明の成立 1章 ユーラシアの諸地域世界 2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ 3章 大西洋世界の変容とその波及	・人類の誕生から古代文明の成立までの背景や流れ・人類や文明の区分を理解する。 ・ユーラシア一帯の地域ごとの歴史の流れや国家成立の背景を理解する。 ・アジア諸帝国の繁栄と衰退、十字軍派遣以降のヨーロッパの繁栄と社会への影響を理解する。 ・市民革命などの影響と、欧米の海外進出やそれに伴うオスマン帝国の衰退について理解する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	中間考查 学期末考查
8 10 11 12	4章 産業社会の拡大と成熟 5章 アジア諸国の変貌と日本 6章 帝国と民族の時代 7章 二つの世界大戦の時代	・ウィーン体制後の自由主義とナショナリズムの展開を理解し、帝国主義の展開による世界への影響を理解する。 ・二つの大戦の原因と経過、結果を理解する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	中間考查 学期末考查
1 2 3	8章 冷戦と民族独立の時代 9章 グローバル化のなかの危機 終章 21世紀に生きる	・冷戦体制の成立と第二次大戦後のアジア・アフリカの民族独立や紛争について理解し、冷戦後のグローバル化や地域統合の動きを理解する。 ・冷戦後の世界でおこった地域紛争の歴史的背景について探求し、今後どうするかを考察する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追求しているか。 【授業態度, 提出物, 出席状況】	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察しているか。 【考查, 授業態度, 提出物】	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 【提出物】	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。 【考查】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	10	20		40	70	学習到達度の確認
提出物等	10	5	5		20	予習・復習の確認
授業態度・発表	3	2			5	取り組む姿勢
出席状況	5				5	授業参加意欲
競技会・資格取得					0	目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「数学A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

科目	数学A	単位数	2単位	学科・学年	3年数学選択者
使用教科書	改訂版 新 高校の数学A (数研出版)				
副教材等	改訂版 ポイントノート数学A (数研出版)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	筋道を立てて論理的に考える習慣を身に付け、情報化社会の中でたくましく活躍していこうとする態度が育てられ、数学の学習の必要性が認識できる。
学習の到達目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	就職・進学に関わらず、現代社会を生きていくのに必要な知識・思考力等を身に付けるための基本的な科目であることを念頭に置き、積極的に授業に取り組む。

2. 計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1章 場合の数と確率 順列・組合せ 確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査
9 10 11 12	2章 図形の性質 平面図形 空間図形	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査
1 2 3	3章 整数の性質	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	数学的な見方や考え方 【 】は方法	数学的な技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法
場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 【授業態度、発表、ノート等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 【発表、ノート、提出物等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【発表、ノート、提出物、平常・定期考査等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 【発表、ノート、提出物、平常・定期考査等】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	項目間の比率 (%)	その他
定期考査・平常考査	5	20	20	25	70	学習度の確認
提出物等	2	4	2	2	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	3	6	3	3	15	取り組む姿勢
出席状況	5	0	0	0	5	欠席理由の明確化
資格・検定試験					0	目標到達度評価
					100%	

科目「化学基礎」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	理科(化学基礎)	単位数	2単位	学年・学科	3年農業科、園芸科、畜産科学科、生活文化科
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 新化学基礎」(化基322)				
副教材等	第一学習社 「ネオパネルノート 改訂 化学基礎」				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	身近な事象・現象に関する観察・実験を通して、化学の基本的な概念を学習する。
学習の到達目標	1. 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 3. 原子量の概念、物質量の定義、濃度の定義を理解できる。 4. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる
取得可能な資格	特記事項なし
授業を受ける心構え	授業開始のチャイムがなるまでに教科書等を机に出し、席に座って先生を待つ。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	化学と人間生活 物質とその構成要素	・物質の利用、身近な物質、物質の状態変化を理解する。 ・混合物と純物質、成分元素を理解する。 ・原子の構造、電子配置等を理解する	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 中間考査 学期末考査
9 10 11 12	物質と化学結合 物質量と濃度 化学反応と量的関係 酸と塩基の反応	・イオンや分子の存在や関連する化学結合等を理解する。 ・原子量、分子量、式量の扱い方と物質の量を表す方法、濃度を表す方法を理解する。 ・化学反応方式の係数比＝物質質量比＝粒子数比を理解する。 ・酸、塩基の基本的な定義を理解し、中和の関係式を理解する。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 中間考査 学期末考査
1 2 3	酸化還元反応 電池と電気分解	・酸化、還元の基本的な定義を理解する。 ・ボルタ電池、ダニエル電池の仕組みや水溶液の電気分解をりかいする。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 学期末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題に関心を持ち、科学的な態度で観察、実験、調査などを行い、意欲的に探究しようとする。 【提出物・テスト・発問・授業態度・出席】	物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題に対し、観察・実験・調査などを計画・実施し、得られた結果に基づいて社会などの関連も踏まえて総合的に考察できる。 【提出物・テスト・発問】	観察、実験、調査などを通して物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。 【提出物・テスト・発問】	観察、実験、調査などを通して物質の成り立ちや物質の変化に関連した学習課題についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。 【提出物・テスト・発問】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		15		35	50	学習到達度の確認
提出物等	20			10	30	復習状況等の確認
授業態度・発表	5		5		10	取り組み姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3単位	学年・学科	全学科3学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2021				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をする事なく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	体づくり運動 集団行動、ラジオ体操 水泳・球技選択	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める ○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ ○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ ○仲間との協力とともに技能を高める	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳 球技 補習(水泳)
9 10 11 12	球技選択 体育理論 陸上競技(長距離走) 球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。 ○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。 ○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技 補習(長距離) ロードレース
1 2 3	体づくり運動 球技選択 体育理論	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。 ○活動計画を立て、実践する。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康安全を確保して主体的に取り組もうとする。 【授業態度、出席状況】	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。 【発表、ワークシートレポート】	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定】	選択した運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法や豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 【理解度チェック、発表等】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
テスト・測定・提出	10	20	30	10	70	
授業態度・発表	10	5		5	20	
出席状況	10				10	
					100%	

科目「英語表現Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	英語表現Ⅰ	単位数	2	学年・学科	3年農業科・園芸科・畜産科学科・食品化学科・生活文化科
使用教科書	SELECT English Expression New Edition（三省堂）				
副教材等	SELECT English Expression WORKBOOK（三省堂）、コーパス1800（東京書籍）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	英語の構造に気をつけて、文章を書いたり自己表現を行ったりする。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得可能な資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・考查
4 5	Lesson 1 自己紹介 Lesson 2 宇宙で食事 Lesson 3 世界へ羽ばたけ Lesson 4 エーゲ海への旅	・あいさつなど自己紹介をする表現 ・世界の様々な食文化を知る ・世界で活躍するスポーツ選手を知る ・旅行をテーマに学習する	・現在形 ・過去形 ・進行形 ・未来表現	1学期中間考查
6 7	Lesson 5 アイドル Lesson 6 祭りだ！ Lesson 7 未来のエネルギー Lesson 8 世界平和	・アイドルをテーマに学習する ・伝統文化やサブカルチャーなどの日本文化 ・新エネルギーと環境問題について ・世界平和をテーマに学習する	・現在完了形 ・現在完了形 ・助動詞 ・助動詞	1学期期末考查
9 10	Lesson 9 美ら海水族館 Lesson 10 未来を拓く Lesson 11 はやぶさ2 Lesson12 不思議な絵	・人気動物をテーマに学習する ・様々な人の生き方を知り自分の生き方を考える ・自然科学をテーマに学習する ・様々な分野の芸術作品をテーマに学習する	・不定詞I ・不定詞 ・動名詞 ・受動態	2学期中間考查
11 12	Lesson 13 ヒエログリフ Lesson 14 私たちの街 Lesson15 書道甲子園	・様々な形で用いられる言語をテーマに学習する ・その土地特有のご当地ものをテーマに学習する ・活躍する高校生をテーマに学習する	・分詞 ・関係代名詞 ・関係副詞	2学期期末考查
1	Lesson16 どれが一番？	・著名な建築物や地理・自然を比較しながら比較級や最上級を学習する	・比較	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
・授業中に積極的に質問したり、答えたりしているか。 ・提出物などきちんと提出しているか。 【授業中の態度】 【提出物】 【出席状況】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できるか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】	・Speaking、Writingの基本的な技能の習得ができたか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】	・基本的な単語・例文を暗記でき、簡単な内容の英文を書けるか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	10	20	20	20	70	学習態度の確認
提出物等	10	0	0	0	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	0	0	0	10	取り組む姿勢
出席状況	10	0	0	0	10	欠席理由の明確化
競技会・資格取得	プラスα	プラスα	プラスα	プラスα	プラスα	目標到達度評価
					100%	

科目「課題研究（果樹）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究（果樹）	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 農業科、園芸科、畜産科学科 食品化学科
使用教科書	果樹（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の果樹に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	果樹に触れながら、果樹をどう活用していくかを課題として研究し、いろんな活用方法を学んでほしい。問題意識を常に持って、実習に参加する。果樹で楽しく作品作りをしましょう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	◎果樹の理解と課題の設定 ◎プロジェクトの計画 ◎ブドウ・カキの栽培管理 ◎プロジェクトの実施	プロジェクト学習。本校果樹園におけるブドウおよびモモの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	栽培実習 実験・実習 生育調査・考察 レポート考察	課題 レポート 小テスト
9 10 11 12	◎ブドウ・カキの収穫 ◎果樹の加工 ◎カキ・クリの生育と栽培管理（収穫） ◎プロジェクト学習・まとめ	プロジェクト学習・まとめ。本校果樹園におけるカキおよびクリの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	栽培実習 観察 レポート考察	レポート 小テスト
1 2	◎まとめ・発表	各自取り組んだ研究について結果をまとめ、パワーポイントを用いて発表する。	レポート考察	レポート

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
果樹に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	果樹の栽培に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、草花に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【日誌、レポート、授業態度】	果樹の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、果樹に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・作品】	果樹の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、果樹の意義や役割を理解している。 【小テスト、レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
実技テスト	5			15	20	学習到達度の確認
提出物等	10	5		5	20	実習日誌
授業態度・発表	10	10	20	10	50	取り組む姿勢・作品
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「課題研究（草花活用）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究（草花活用）	単位数	2単位	学年・学科	3学年・園芸科、畜産科学科、食品化学科
使用教科書	草花（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の草花に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	草花に触れながら、草花をどう活用していくかを課題として研究し、いろんな活用方法を学んでほしい。問題意識を常に持って、実習に参加する。草花で楽しく作品作りをしましょう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	◎苗物の栽培・寄せ植え ◎アレンジメント ◎キクの栽培管理 ◎用土と肥料	草花や園芸デザインについて学び、学校の草花や樹木を使ってアレンジメントの作成を学ぶ。草花の生育や生育環境等について理解する。キクや観葉植物など挿し木や育苗、繁殖方法を理解させる。花の種類を学ぶ。	栽培実習 作品 生育調査・考察	レポート 作品評価
9 10 11 12	◎キクの栽培管理 ◎苗物生産（秋物） ◎キクの展示 ◎フラワーアレンジメント ◎リース作成・講習会	夏の栽培実習経験を生かした実践を行う。型をつけることで高品質のキク仕立て方や生産について理解する。菊まつりやガーデニングコンテストに出展。リースやスワッグを学んだ技術をもとに作品発表や講習会企画する。	栽培実習 観察 作品	レポート 作品評価
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎研究レポート	草花の楽しみ方について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。	レポート考察	レポート

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
草花に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	草花の栽培に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、草花に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	草花の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用して作品を制作できる。	草花の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花の意義や役割を理解している。特性をふまえて栽培管理方法を考えることができる。
【授業態度、出席状況】	【日誌、レポート、授業態度】	【授業態度・作品】	【実技テスト、レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
レポート課題	5			5	10	学習到達度の確認
提出物等		10		10	20	実習日誌
授業態度・発表	20	10	20	10	60	取り組む姿勢・作品
出席状況・服装	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「課題研究（野菜）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	課題研究（野菜）	単位数	2単位	学年・学科	3学年・全科
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の野菜に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	野菜を栽培しながら、野菜をどう生産していくかを課題として研究し、いろんな活用方法を学んでほしい。問題意識を常に持って、実習に参加する。野菜で楽しく生産物を作りましょう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎野菜の栽培（夏野菜） ◎トマトの栽培管理 ◎メロンの栽培管理 ◎用土と肥料	野菜の栽培や生育について学び、肥料量を調節することで生育の違いを学ぶ。野菜の生育や生育環境等について理解する。トマトやメロンなどのハウス栽培のメリットとデメリットを理解させる。	栽培実習 生育調査・考察	課題決め 日誌 レポート
9 10 11 12	◎野菜の栽培管理（秋野菜） ◎キュウリの栽培管理 ◎ナスの栽培管理 ◎食味検査	春の栽培実習経験を生かした実践を行う。マルチ等の農業資材の利用をしながら、堆肥量の比較をすることで野菜に最適な堆肥量や高品質の野菜生産について理解する。	栽培実習 生育調査・考察	課題決め 日誌 レポート
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎研究レポート	野菜の栽培管理について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。	レポート考察	レポート

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
野菜に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	野菜の栽培に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、栽培に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【日誌、レポート、授業態度】	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生育状況に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・作品】	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜の意義や役割を理解している。 【日誌、レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)	5			15	20	学習到達度の確認
提出物等		5		5	10	実習日誌
授業態度・発表	20	10	20	10	60	取り組む姿勢・作品
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「総合実習（草花）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習（草花）	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 園芸科
使用教科書	草花（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	自ら学びとろうとする姿勢を忘れず、実習・観察・研究に積極的に参加し、問題意識を常に持って、実習に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	◎草花の栽培管理 ◎苗物生産（春物） ◎草花の栽培管理 ◎シクラメンの用土と肥料	栽培の基礎・基本や生育環境（温度・光・水分）等について理解させる。 鉢上げや鉢替え、学校独自の用土について理解させる。除草作業の意義について理解させる。	栽培実習 生育調査・考察 販売実習	農業鑑定 意見発表 学期末考査
9 10 11 12	◎シクラメンの栽培管理 ◎苗物生産（秋物） ◎シクラメンの出荷調整	夏の栽培実習経験を生かした実践を行う。／葉組みや枯れ葉取りを行う事で高品質のシクラメン生産について理解させる。	栽培実習 販売実習 生育調査・考察	学期末考査
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎鉢もの生産（サイネリア・アネモネ等） ◎研究発表	持続可能な農業について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。シクラメン以外の鉢もの生産について理解させる。	栽培実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
草花の栽培に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	草花の栽培に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、草花に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、卒論、授業態度】	草花の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	草花の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花の意義や役割を理解している。 【考査、卒論・鑑定】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		10		10	20	意欲の確認、理解度の確認
提出物等		5		10	15	意見発表作文、日誌
授業態度・発表	20	10	10	10	50	実習を取り組む姿勢・鑑定
出席状況	15				15	出席・服装忘れ状況
競技会・資格取得					0	
					100%	

科目「総合実習（果樹）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習（果樹）	単位数	2単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書	「果樹」（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	果樹栽培全般に関連する基礎的な知識や生理現象について学び、本校で栽培している果樹を中心に、果樹の生育過程やその栽培管理方法、応用技術などについて実践を通して学び、技術を習得する。
学習の到達目標	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	栽培管理、栽培評価を主体的に行うなどの課題の探求に意欲的に取り組む。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考 査
4 5	ブドウ・モモの生育と栽培管理	本校果樹園におけるブドウおよびモモの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	座学、実験・実習	
6 7	ブドウ・モモの生育と栽培管理とモモの収穫	本校果樹園におけるモモの収穫を通して、地域農業における実態を習得させる。販売を通して、品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	座学、実験・実習	定期考査
9 10	ブドウの収穫	本校果樹園におけるブドウの収穫を通して、地域農業における実態を習得させる。販売を通して、品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	座学、実験・実習	
11 12	カキ・クリの生育と栽培管理（収穫）	本校果樹園におけるカキおよびクリの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	座学、実験・実習	定期考査
1 2	果樹の品種、生育と栽培管理（剪定）	本校果樹園における栽培管理を通して、冬期の土管理と剪定について体験させる。果樹園における次年度に向けた備えを実践させる。	座学、実験・実習	定期考査
3				

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
果樹栽培の実践を通して、果樹の生育経過を観察し、興味・関心を持って積極的に取り組める。 【態度・服装・出欠状況】	栽培を通して、様々な問題に直面した場合、自ら考え判断する力が備わっている。 【態度・実習日誌】	栽培の手順をしっかりと学び、指示した内容が的確に行い、説明をすることができる。 【実習日誌】	果樹の特性について学び、生育経過・管理手順等を体系的に学び、理解している。 【実習態度】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		10		10	20	学習到達度の確認
提出物等		5		5	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	25	10	15	10	60	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
					100%	

科目「総合実習（野菜）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	総合実習（野菜）	単位数	2 単位	学年・学科	3 学年 園芸科
使用教科書	野菜（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	野菜に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をととして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
学習の到達目標	野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を理解させ、野菜の特性や栽培に適した環境を習得させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	農業技術検定（2級・3級）
授業を受ける心構え	授業で習ったことを実際に体験し理解を深める。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5	1 高度な技術を要する施設野菜の実際	1. 肥後グリーンを中心として野菜の種類と特徴 2. 野菜の播種 3. 野菜の生育観察 4. 野菜の除草等管理 5. 野菜の施肥など	座学・実習	
6 7	2 野菜の収穫と次作に向けて	1. 肥後グリーンの生育と生理 2. 野菜の栽培環境と生育調節 3. 野菜の栽培管理と収穫	座学・実習	期末考査
9 10 11 12	3 学習成果発表に向けての施設野菜栽培	1. アールスメロン栽培 2. スイカ・キュウリ栽培 3. 野菜の栽培管理と収穫	座学・実習	期末考査
1 2 3	4 野菜のまとめ（卒論含む）	1. 野菜栽培の生育調査まとめ 2. プロジェクト発表	座学・実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
野菜の体験的・継続的な栽培活動と地域農業の実態、経営形態、わが国の食生活に興味・関心を持ち、野菜栽培に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を探究しようとする実践的な態度を身につけている。 【出欠状況・ポートフォリオ】	野菜の観察・実験・調査・記録を分析するなど課題を多面的に考察し、野菜栽培の基礎的な知識と技術を活用するなどして課題を適切に判断するとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決する実践的な能力を身につけている。 【実技・ポートフォリオ】	野菜の経営学習において、野菜の栽培計画・管理・環境制御・農地利用など農業に関する専門的な技術を身につけ、野菜栽培での品質と生産性の向上を適切に実施するとともに、栽培方法を正確に表現する。 【実技試験】	野菜生産の社会的役割を認識させ、各作物生産から消費者までのしくみを理解させる。また、栽培に関する科学的な見方と主体的・合理的に栽培する知識を身に付け、実習をととして野菜の生育と環境調整および人工環境における栽培技術について理解している。 【考査・レポート・鑑定】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		10		10	20	意欲の確認、理解度の確認
提出物等		5		5	10	意見発表作文、日誌、卒論
授業態度・発表	25	10	15	10	60	実習を取り組む姿勢・鑑定
出席状況	10				10	出席・服装忘れ状況
資格・検定試験					0	
					100%	

科目「専攻（野菜）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	類型学習(野菜)	単位数	6単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書	野菜 (実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	野菜に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をとおり、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
学習の到達目標	野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を理解させ、野菜の特性や栽培に適した環境を習得させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	農業技術検定（2級・3級）
授業を受ける心構え	授業で習ったことを実際に体験し理解を深める

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5	1 高度な技術を要する施設野菜の実際	1. 肥後グリーンを中心として野菜の種類と特徴 2. 野菜の播種 3. 野菜の生育観察 4. 野菜の除草等管理 5. 野菜の施肥など	座学・実習	中間考查
6 7	2 野菜の収穫と次作に向けて	1. 肥後グリーンの生育と生理 2. 野菜の栽培環境と生育調節 3. 野菜の栽培管理と収穫	座学・実習	期末考查
9 10 11 12	3 学習成果発表に向けての施設野菜栽培	1. アールスメロン栽培 2. スイカ・キュウリ栽培 3. 野菜の栽培管理と収穫	座学・実習	中間考查 期末考查
1	4 野菜のまとめ（卒論含む）	1. 野菜栽培の生育調査まとめ 2. プロジェクト発表	座学・実習	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
野菜の体験的・継続的な栽培活動と地域農業の実態、経営形態、わが国の食生活に興味・関心を持ち、野菜栽培に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を探究しようとする実践的な態度を身につけている。 【出欠状況・ポートフォリオ】	野菜の観察・実験・調査・記録を分析するなど課題を多面的に考察し、野菜栽培の基礎的な知識と技術を活用するなどして課題を適切に判断するとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決する実践的な能力を身につけている。 【考查・ポートフォリオ】	野菜の経営学習において、野菜の栽培計画・管理・環境制御・農地利用など農業に関する専門的な技術を身につけ、野菜栽培での品質と生産性の向上を適切に実施するとともに、栽培方法を正確に表現する。 【実技試験】	野菜生産の社会的役割を認識させ、各作物生産から消費者までのしくみを理解させる。また、栽培に関する科学的な見方と主体的・合理的に栽培する知識を身に付け、実習をとおり野菜の生育と環境調整および人工環境における栽培技術について理解している。 【考查・レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查		10		40	50	学習到達度の確認
提出物等	5	10			15	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	10	10		25	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
資格・検定試験						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「専攻（果樹）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	果 樹	単位数	6 単位	学年・学科	3 学年 園芸科
使用教科書	果樹（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	果樹を通じた経営感覚を育て、プロジェクト学習を中心に据える。観察や実習を通して、果樹の特性や生育、栽培環境の相互関係や環境の調節について学び、果樹栽培に関する科学的な見方と実践力を身につける。
学習の到達目標	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	栽培管理、栽培評価を主体的に行うなどの課題の探求に意欲的に取り組む。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5	プロジェクト学習 ブドウ・モモの生育と栽培管理	プロジェクト学習。本校果樹園におけるブドウおよびモモの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	座学、実験・実習	定期考查
6 7	プロジェクト学習 モモの収穫	プロジェクト学習。本校果樹園におけるモモの収穫を通して、地域農業における実態を習得する。販売を通して、品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	座学、実験・実習	定期考查
9 10	プロジェクト学習 ブドウの収穫	プロジェクト学習。本校果樹園におけるブドウの収穫を通して、地域農業における実態を習得させる。販売を通して、品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	座学、実験・実習	
11 12	プロジェクト学習・まとめ カキ・クリの生育と栽培管理（収穫）	プロジェクト学習・まとめ。本校果樹園におけるカキおよびクリの生理・生態的な特性や栽培環境およびそれらと生育の相互関係を理解させ、体系的な知識と技術を習得させる。	座学、実験・実習	定期考查
1 2	プロジェクト発表 果樹の品種、生育と栽培管理（剪定）	プロジェクト発表。本校果樹園における栽培管理を通して、冬の土管理と剪定について体験させる。果樹園における次年度に向けた備えを実践させる。	座学、実験・実習	定期考查
3				

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
果樹栽培の実践を通して、果樹の生育経過を観察し、興味・関心を持って積極的に取り組める。 【態度・服装・出欠状況・卒業論文】	栽培を通して、様々な問題に直面した場合、自ら考え判断する力が備わっている。 【態度・実習日誌】	栽培の手順をしっかりと学び、指示した内容が的確に行い、説明をすることができる。 【実習日誌】	果樹の特性について学び、生育経過・管理手順等を体系的に学び、理解している。 【実習態度・卒業論文】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	5	5	5	25	40	学習到達度の確認
提出物等	10		5	5	20	予習・復習の確認
授業態度・発表	15	10	5		30	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
					100%	

科目「専攻（草花）」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	類型学習(草花)	単位数	6単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書	草花(実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の草花に関するプロジェクト学習を通して、栽培管理技術、問題解決能力、または経営能力を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解したうえでの管理能力や企画力など、農業の各分野の改善を図ることのできる実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育成する。また、科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野の発展を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	フラワー装飾技能検定
授業を受ける心構え	自ら学びとろうとする姿勢を忘れず、実習・観察・研究に積極的に参加し、問題意識を常に持って、実習に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎シクラメンの栽培管理 ◎シクラメンの生育特性 ◎苗物生産(春物) ◎シクラメンの栽培管理 ◎シクラメンの用土と肥料	シクラメンの生産、消費の特徴や原産地の気候及び本来の生育・生育環境(温度・光・水分)等について理解する。 ／4. 5号、5号、6号鉢に鉢替えや学校独自の用土について理解する。養分吸収特性について理解する。	栽培実習 生育調査・考察 販売実習	定期考查
9 10 11 12	◎シクラメンの栽培管理 ◎苗物生産(秋物) ◎シクラメンの出荷調整	夏の栽培実習経験を生かした実践を行う。／葉組みや枯れ葉取りを行う事で高品質のシクラメン生産について理解する。花壇作成を行い、重要性や特性を理解する。	栽培実習 販売実習	定期考查
1 2 3	◎栽培実習のまとめ ◎鉢もの生産 (サイリア、アネモネ等) ◎研究発表	持続可能な農業について理解を深めるとともに、栽培実習での経験を踏まえ、考察を深める。／シクラメン以外の鉢もの生産について理解する。	調査の考察 ディベート 研究発表会	卒論 定期考查 研究発表

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
草花の栽培に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	草花に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、草花に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考查、レポート、授業態度】	草花の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	草花の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花の意義や役割を理解している。 【考查、日誌、卒論】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)		10	10	10	30	学習到達度の確認
提出物等	10	10		5	25	日誌、卒論
授業態度・発表	10	10	10		30	取り組む姿勢
出席・服装状況	15				15	授業参加意欲
競技会・資格取得						
					100%	

科目「農業経営」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業経営	単位数	2 単位	学科・学年	園芸科 3 学年
使用教科書	農業経営 (実教出版)				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	将来、農業経営者やその他の部門でも経営者になったときにどのようなことが大事で、経営者の何が必要かを学ばせる。
学習の到達目標	農業経営の①設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、②コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、③経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	今の日本の農業経営と世界情勢、大切な簿記を真剣に考えさせる。

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	・ 農業の動向と農業経営 ・ 農業経営の組織と運営 ・ 農業経営と情報 ・ 農業経営の会計	今に至るまでの流通のなりたちについて、現代生活と流通のかかわりや、流通の主な働きについて理解する。	知識学習 ワークシート	中間考査 期末考査
9 10 11 12	・ 農業経営の診断と設計 ・ 農業簿記	農作物や食品の流通について、それぞれの食品特性との関わりも含めて理解する。	知識学習 ワークシート グループディスカッション	中間考査 期末考査
1 2 3	・ 農業簿記 ・ 経営診断	経営の分析・診断をすることで課題等の発見	知識学習 ワークシート	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	思考・判断・表現 【 】は方法	技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法	備考
経営の設計や管理に興味関心を持ち、コスト管理やマーケティングの経営改善の探究に取り組む、課題を解決しようとしたことができたか。【テスト、レポート、観察法】	農業経営の改善を目指し自ら思考を深め基本的な知識を活用するなどして課題を適切に判断し、さまざまな視点で表現することができたか。【テスト、レポート・ディスカッション】	コスト管理やマーケティングの農業経営の課題を計画的に適切に処理、改善し、その成果を適切に調査することができたか。【テスト、レポート】	農業経営の設計と管理に必要な基本的な知識、コスト管理やマーケティングの技術などを身に付け農業経営改善の必要性を理解して学習できているか。【テスト、レポート】	

4 規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	項目間の比率 (%)	その他
定期考査・平常考査	5	10	5	30	50	学習度の確認
提出物等	5		5	5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	10		5	25	取り組む姿勢
出席状況	10				10	欠席理由の明確化
資格・検定試験					0	
					100%	

科目「農業機械」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業機械	単位数	2 単位	学科・学年	農業科・園芸科・畜産科学科3年
使用教科書	農業機械（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	①農業機械の取扱いと維持管理に必要な知識と技術を理解する。 ②機械の構造と作業上の特性を理解する。 ③農業機械の効率的な利用を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、農業の社会的な意義や役割を理解するとともに農業に関する諸課題を主体的、合理的に解決し、農業の充実と社会の発展を図る創造的、実践的な能力と態度を養う。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	農業機械を知り、機械を安全かつ大切に使用する心を持たせる

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	・ 農業機械の役割 原動機 1 内燃機関 2 電動機	農業機械化の意義を理解する。 農業機械の利用とその現状を理解する。農業生産に関わるエネルギーの種類と動力源を理解する。 エンジンの作動原理・構造を理解する。	農業機械利用の多様化と重要性 エンジンの作動原理 吸気・圧縮・膨張・排気行程	中間考査 期末考査
9 10 11 12	トラクタの構造と整備 農業機械の操作	トラクタの種類、構造および機能を理解する。 トラクタの性能と歩行用トラクタの構造と整備を理解する。	トラクタの基本的運転操作	中間考査 期末考査
1 2 3	作業機とその操作	牽引・耕うん・整地用機械	牽引運転 プ ラウ ロー ター リー	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	思考・判断・表現 【 】は方法	技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法	備考
農業機械について理解し、それぞれの内容について、興味・関心を持って意欲的に取り組める。 【態度・服装・出欠状況】	演習をとおして、様々な問題に直面した場合、自ら考え判断し、表現することができる。 【態度・プリント】	農業機械の手順をしつかりと学び、指示した内容が的確に行い、実際に安全に操作することが出来る。 【プリント】	農業機械の各分野の特性について学び、操作手順等を体系的に学び、理解している。 【プリント】	

4 規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	項目間の比率（%）	その他
定期考査・平常考査	1 5	1 5		3 0	6 0	学習度の確認
提出物等	5	1 5		5	1 5	予習・復習の確認
授業態度・発表・実技	5	5	5	5	2 0	取り組む姿勢
出席状況	5				5	欠席理由の明確化
競技会・資格取得						目標到達度評価
1 0 0 %						

科目「植物バイオテクノロジー」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	植物バイオテクノロジー	単位数	2単位	学年・学科	3学年 園芸科
使用教科書	植物バイオテクノロジー（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	園芸植物や動物、人間社会においてさまざまな分野にバイオテクノロジー技術が利用されていることを深く理解する。また、実用につながる基礎・基本となる知識と技術を学ぶ。
学習の到達目標	1. 人類がバイオテクノロジーをどのように活用、また日常生活とどのように結びついているかを理解する。2. バイオテクノロジーの基礎基本を実践し、農業や環境へのつながりを理解する。3. バイオテクノロジーを通して生命の尊さを学び、生物が持つ潜在的な能力を理解し応用する能力を養う。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	世の中から求められる技術及び技術の正しい捉え方・使い方について考えよう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	◎バイオテクノロジーの役割と基礎 ◎組織培養の基礎	○農業とバイオテクノロジーの関係を知る ○植物の特性とバイオテクノロジーの基礎について学ぶ ＜植物の観察・実験器具の扱い方＞	知識学習 ワークシート 実験	中間考查 学期末考查
9 10 11 12	◎細胞融合と遺伝子組換え ◎バイオマスの利用	○細胞融合のしくみについて理解する ○遺伝子組換えの特質と技術の正しい捉え方について考える＜植物の培養実習＞ ○バイオマスの活用について探る ＜アイディアシートの作成＞	知識学習 ワークシート 実習	中間考查 学期末考查
1 2 3	◎植物バイオテクノロジーの成果と展望	○実用化への課題と展望について考える ○地球環境のために、技術をどう生かすかについて、考えをまとめ、意見を共有する ＜ディベート「世の中に求められるバイオテクノロジーとその活用」＞	知識学習 ワークシート レポート 実習	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
農業とバイオテクノロジーの関わりや役割に興味・関心を持ち、学習や研究に主体的に取り組む姿勢を身につけている。 【授業態度・学習記録・出欠】	バイオテクノロジーについての記録から技術の特性を分析し、課題を見つけて表現すると共に、解決する力を身につけている。 【学習記録・レポート・考查】	植物培養のポイントを身につけて実践すると共に、適切な操作・取り組みにつなげるため、これらを活用している。 【実習成果・発表】	バイオテクノロジーの特性や農業分野との関係性、また現代社会から求められる役割について、正しく理解している。 【考查・レポート・発表】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)		15		30	45	学習到達度の確認
提出物等		5	5	5	15	学習記録等の確認
授業態度・発表	10	10	5	5	30	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						
100%						

科目「生物活用」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	生物活用	単位数	1 単位	学年・学科	3 学年 園芸科
使用教科書	生物活用（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特徴を理解させるとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	生活の質の向上と思いやりを持ち、しなやかに生きる能力と態度を身につける。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	自ら学ぶ姿勢で、生活の質の向上を目指し、授業に積極的に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	・園芸作物の栽培と活用 ・動物の飼育と活用	園芸作物の栽培と利用に関する知識と技術を習得させるとともに、社会動物を活用した交流活動の準備や活動の支援も含めたプログラムの作成、実施や評価を適切に行う能力と態度を育てる。	座学 ワークシート	レポート 学期末考査
9 10 11 12	・動物の飼育と活用	社会動物との触れ合い、飼育・しつけに関する知識と技術を習得させ、動物との触れ合いや飼育が精神・身体・社会的効用をもたらす、生活の質の向上につながることを理解させる。	座学 ワークシート	レポート 学期末考査
1 2 3	・動物介在療法 ・生物活用の実践	日本や海外の動物介在療法、動物介在活動の現状や役割について理解させる。	座学 ワークシート レポート	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
生物活用に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	生物活用に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、園芸に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	生物活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生物活用に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	生物活用に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)	5	10		30	45	学習到達度の確認
提出物等	10	5			15	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	10	5		25	取り組む姿勢
出席状況	15				15	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	